



花道(上)や前舞台(右)は、通常は床下に収納されており、必要に応じて出し入れが可能。この他にも回り舞台や、大迫り、小迫りと呼ばれる床下からせり出してくる舞台装置も備えている



沖縄伝統芸能の拠点開場 National Theatre Okinawa

# 国立劇場おきなわ

今年1月18日、国立劇場おきなわが開場し、開場記念公演が今月下旬まで行われます。国立劇場おきなわとはどんな施設か、ご紹介します。



劇場正面の共通ロビー



楽屋



会議室



沖縄県浦添市勢理客4-14-1  
 【交通アクセス】  
 ●那覇空港よりタクシーで約30分。(時間帯による)  
 ●那覇空港バス乗り場「99番」・「120番」・「124番」より、沖縄バス・琉球バス・那覇交通にて「勢理客」下車、徒歩約10分。

お問い合わせ

県教育庁文化課(県庁13F) TEL.098-866-2731 FAX.098-867-4350  
 (財)国立劇場おきなわ運営財団 TEL.098-871-3311 FAX.098-871-3321

能に対応することが可能となっております。また、歌やセリフの理解を助けるために、舞台の両端には大型の字幕装置も設備されています。二五五席の小劇場は、小規模の公演・研修などに対応できる構造となっているだけでなく、大劇場での公演を鑑賞できるスクリーンも設備されています。

まさに沖縄伝統芸能の殿堂として、そして、アジア・太平洋地域の文化交流拠点として優れた伝統芸能の公演の場にふさわしい施設です。

これまで伝統芸能に触れる機会が少なかった方々も、ぜひ国立劇場おきなわに足を運び、質の高い優れた舞台を堪能してください。



大劇場ホワイエ(ロビー)の2階

全国で六番目の国立劇場となる、国立劇場おきなわ。国の重要無形文化財「組踊」を中心とする沖縄伝統芸能の保存振興を図るとともに、沖縄の地理的・歴史的な特性を活かし、伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流の拠点となることが期待されています。

沖縄の芸能関係者にとって、国立劇場おきなわの設立は悲願でした。これまで専用の施設がなく、形態の異なる舞台上で上演する状態が続いていたため、技芸・様式の変化が心配され、伝承者の養成や総合的な記録保存・調査研究にも支障が出ていました。また、総合舞台芸術の重要無形文化財のうち国立の専用劇場が設置されていないのは組踊だけでした。

沖縄県や地元関係団体等からの強く長い要望の結果、平成八年の「沖縄政策協議会」で国立劇場の設立が沖縄振興策の重要プロジェクトのひとつに位置付けられたことから設立準備が開始され、今年ついに開場となりました。

国立劇場おきなわができるまで

国立劇場おきなわは、組踊を中心とする沖縄伝統芸能を公開するための設備が整った専用の施設で、本県では他に類をみない優れた劇場施設です。

敷地面積二四、〇〇〇平方メートル、延床面積一四、七二九平方メートル、地下一階、地上三階建の大型施設で、音響・照明等の舞台機構が優れた二つの劇場(大劇場・小劇場)のほか、楽屋、稽古場や道具製作室、さらに伝承者養成のための研修室や資料の展示・保管室も完備されています。

最大六三三席の客席数を誇る大劇場には、オープンステージ(舞台が客席の中に張り出した形式で、緞帳などの幕を使用しない)とプロセニアムステージ(今日の劇場・ホールで一般的に見られる額縁状の枠をもった形式で、緞帳などの幕を用いる)可変式のステージの他に、回り舞台、大迫り・小迫り、花道、すっぽん等の舞台機構があり、組踊特有の張り出し舞台だけでなく、様々な伝統芸

沖縄では他に類を見ない、優れた劇場施設

